

『一生懸命』幻の新座市議会報告第89弾!



たかむらともや

巳年!

2013年は巳年です。昭和28年、花の二八組の干支です。僕らの世代が還暦を迎える年ということで…いつもとは違う気持ちになっています。

同級生たちの大半がもう直ぐ第一線を退くのです。光陰矢のごとしとはこのことです。

市民と語る会は昨年12月末に4人から3人になりました。議会での仲間は減りましたが、「たかやんの応援団」は2000人以上います。応援してくれている仲間の為にも、自分が出来ることを全力で一つ一つ片付ける1年にしたいと思っています。

今年も元気一杯がんばります! たかやん

心に残る言葉

誰にでも人生を決めるような「心に残る言葉」があると思います。僕の場合もいくつかあります。

まず、小学校5年生の時に父さんが言ってくれた「朋友は作文が上手だよ」という言葉。その言葉が20年間「一生懸命」という学級通信を書き続ける力になりました。そして、たかやん日記やこの「一生懸命」を書く力の源になっているのです。学校の先生には一度も誉められたことがなかったので、この言葉は本当に嬉しいものでした。

小さい頃、母さんが言ってくれた「お母さんは、何があってもとんちゃんの味方よ」という言葉も生きる力になっています。どんなに人から攻撃されても、駄目な奴だと言われても、母さんだけは味方で居てくれる。自分が独りになることは絶対にない。それが今の自分を作ってきた気がします。

中学校3年生の時の担任の河合先生の言葉「俺はタカが好きだよ」には泣きました。当時、新宿の戸塚警察を動かすような悪ガキは、その一言で目覚めました。(もう悪いことは絶対にしない!)と心に誓ったのです。そして、その一言は僕が教師になるきっかけになりました。人生は人との出会いで決まりますが、出会った人の一言がずっと心に残り、その人を動かす力になる事があるのですね。僕もい言葉発信したいものです。たかやん

2013年 1月 31日発行



体幹を鍛えるトレーニングをしているところです。市議会議員としても人としても体幹を鍛えないといけないと思っています。

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや。

教育を語らせたら、止まらない男。都立石神井高校を経て北海道大学へ。新座五中・六中・二中で21年間、学級通信「一生懸命」を毎日のように発行する。

五・六中の男女硬式テニス部を率いて、関東大会5回、全国大会2回優勝。

2012年2月、2218票で当選。新しい会派「市民と語る会」を結成。文教環境常任委員長。

2004年から議員日記は9年毎日更新し、議会報告を毎月発行している。

「たかやん塾」塾長。小中高生と楽しみながら学び続けている。子ども達の内部被爆を防ぐ為に「給食ゼロベクレル宣言」を訴えている。

「観光新座」ではなく「教育新座」「環境新座」を訴え「原発再稼働反対」「TPP反対」「消費税増税反対」「対米追随反対」「新自由主義反対」を訴えている。5年前から月に一度の黒目川の川掃除に燃えている。現在、糖尿病と格闘中。トレーニングにも燃えている。

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 議会改革特別委員会

今この委員会で一番問題になっているのが、広報費の問題です。「政務調査費」が「政務活動費」になり、政務活動費の使い道の幅が増えつつあるのが全国的な傾向です。県内40市で「広報費」を認めていない市は新座市を含めて3市だけ。要するに、新座市は会派で視察にはよく行くが、視察に行きっぱなしでお終いになっていることが多いということです。市民の税金で行くのですから、その結果を広報するのは当たり前のことだと思うのですが、それが出来ていないのです。(勿論、語る会では視察内容は全て報告してきました！)

広報費を認めれば、各会派による議会報告会なども活発になるでしょう。視察に行くだけでは通らなくなります。視察に行き、何を見て、何を学んできたのか。それを新座市でどう生かしていこうと思っているのか。それを伝えることが大事なのだと思うのです。因みに、現在「広報費」を認めるべきだと主張しているのは「市民と語る会」「日本共産党」「翠生会」の3会派だけです。今年度から議会のインターネット中継も始まります。議会での居眠りや野次が減り、市議会への関心が高まることを期待しています。



川掃除は今年の8月で6年目に入ります。ひばりヶ丘や東久留米でこの「一生懸命」を受け取ってくれた人の中から新しい仲間が生まれていくのだから楽しいです。来月2月は10日(日)に行く予定です。9時に栗原1丁目公園に集合します。馬喰橋からスタートし、神宝大橋までみんなで掃除をしていきます。17日(日)の午後には脱原発ウォーキングもあります。詳しくはHPをご覧ください。

③ デコピンとチョップ

小学校2年生の時、担任の向後先生の代わりに来たのが片岡先生でした。30代の女先生で、得意技はデコピン。広島出身の先生だったので、あだ名は「原爆」。そのデコピンも「原爆」と生徒達に恐れられていました。悪いことをすると、原爆デコピンが待っています。でも、僕たちはそのデコピンが何故か好きでした。かなり痛いのですが、先生のことが大好きだったので、デコピンをして欲しいという気持ちもあったのです。わざと悪戯をして、デコピンを喰らったものです。今でも、片岡先生の優しい眼差しとあのデコピンが懐かしいのだから凄いです。

昔の五中には「神宮司チョップ」を必殺技にする神宮司久子さんがいました。五中生でチョップを喰らわなかった生徒がいなかったくらい、炸裂していたのですが、問題になったことはありませんでした。僕も新任の時に、「神宮司チョップ」を喰らいました。当時24歳の僕は神さん(じんさん)から見たら15歳の中学生と変わらなかったのかも知れません。

「こら！教卓に座るんじゃない！」(バシッ！)

「痛っ！」僕は神宮司久子にどれかけ可愛がられたか分かりません。僕にとってお母さんのような先生だったのです。

大阪の桜宮高校バスケット部のピンタは片岡先生のデコピンや神さんの「神宮司チョップ」とは違います。生徒の心を傷つけるピンタだからです。練習試合でミスをした生徒をピンタする・そういう指導者は中学校でも見たことがありますが、とても気分の悪いものでした。

それより気分が悪いのは、大阪市長の発言です。悪いのは顧問とそれを見て見ぬフリをしてきた校長なのに、「部活動の無期限停止」や「入試の中止」、そして「教師の総入れ替え」を市教委に迫ったのです。市長に任命される教育委員は市長に逆らうことは難しいのを知っての発言に腹が立ちます。

教師を総入れ替えしたって、教師の心が変わらなければ、他の学校で同じ事が起きますでしょう。学校には言葉による暴力だってあるのです。その方が多いことは確かです。大切なのは子どもたちに寄り添うことです。子どもたちはそういう先生を求めているのです。

たかやん